

「令和 7 年度水田収益力強化ビジョン」の考え方 及び今後の推進（案）について

令和 6 年度から令和 8 年度に向けて策定した「福島県水田収益力強化ビジョン」の考え方に基づき、引き続き需要に応じた生産を推進する。

1 需要に応じた生産・販売に関する現状・課題

- (1) 令和 6 年産の主食用米作付面積は、生産の目安を 3, 400ha 上回る 56, 500ha となった。
- (2) 非主食用米の取組では、備蓄米、飼料用米が柱となっている。令和 6 年産の備蓄米は前年比 806ha 増加したが、飼料用米は前年比 4, 754ha 減少し、主食用米の増加につながった。
- (3) 戦略作物の取組は、前年並みの状況にあり、一部の品目は畑地化へ移行した。
- (4) 米の需給環境の改善や集荷競争の激化などから米価は高騰しており、主食用米への回帰の機運が高まっている。
- (5) 非主食用米において、比較的需要の高い加工用米や新市場開拓用米の取組が低調である。

2 令和 7 年産米の需要に応じた生産・販売の取組推進の基本的考え方

- (1) 令和 5 年産米は、インバウンドの増加や物価高騰の中「米の値上がり率が他の食品より低かった」などの要因で消費が伸び、米価は徐々に上昇した。さらに、昨夏は小売店等での品不足から「令和の米騒動」となり、その影響で令和 6 年産米の集荷競争は激化し、相対取引価格が平成 5 年を上回るなど米価は高騰している。
- (2) しかし、国内の人口減少や食生活の多様化などの影響で主食用米の需要量は年間 10 万ト程度減少するほか、米価高騰から消費者や実需等が国内産米の購入回避などから需要量の低下も懸念される。
- (3) 農家所得の安定確保と地域農業の持続的な発展を図るため、主食用米の需給バランスを保ちながら、麦、大豆等の畑作物や収益性の高い園芸作物へ作付転換するなど、需要に応じた生産を引き続き推進することが重要である。
- (4) 推進事項
ア 地域農業再生協議会は、関係者と協議の上、令和 7 年産米の制度別・用途別作付計画、中長期的な取組方針を策定するとともに、生産者に需給環境や

水田農業の将来方向等を丁寧に説明し、引き続き需要に応じた生産を推進する。

イ 担い手の高齢化・減少が急速に進展する中、「地域計画」の策定に併せて、地域農業再生協議会単位で地域農業のあり方や中長期的な将来展望を検討するとともに、地域の特徴や実態に応じた振興品目を設定し、中長期的な視点で振興品目による産地づくりを推進する。

ウ 食料安全保障や省力的な作業体系による大規模経営体の育成の観点から、小麦、大豆、飼料作物等の畑作物の振興を図る。

エ 非主食用米においては、実需からの要望が高い加工用米や新市場開拓用米等の取組を促す。

3 主な作物の重点取組

(1) 主食用米

ア 令和7年産における主食用米の生産の目安は、原子力被災12市町村の営農再開状況、本県の需要量シェアや在庫量による検証を行い、56,500haとした。

イ 生産者と実需との事前契約を推進し、売れ残りのない需要に応じた米づくりを進める。

ウ 「コシヒカリ」から作業性や収量が期待できる県オリジナル品種の「天のつぶ」や「里山のつぶ」への転換を進めるとともに、担い手への農地集積や省力的な栽培技術の導入を推進しコスト削減に取り組む。

(2) 備蓄米

ア 備蓄米の本県優先枠が31,606トンに設定されたことから、この数量の確保に向けて推進する。

イ 備蓄米は、食料安全保障の観点で重要であり、主食用米品種で取り組めることから、小中規模層などへ広く推進する。

(3) 飼料用米

ア 多収品種での取組を推進するとともに、適切な肥培管理を促す。

イ 県農林事務所等の技術支援のもと、単収の向上を図る。

(4) 加工用米・新市場開拓用米

ア 加工用米は、酒造用に加え、加工米飯、みそ・醤油、米菓用等の実需と産地

の結びつきを推進し、取組拡大を図る。

イ 新市場開拓用米では、低コスト栽培を推進し、「コメ新市場開拓等促進事業」の活用を促しながら、輸出用、バイオプラスチックの作付拡大を図る。

(5) W C S用稲・飼料作物

ア 大規模牧場の新設に伴い、W C S用稲や飼料用とうもろこし等の需要拡大が見込まれることから、飼料作物等の生産拡大と供給体制の構築を図る。

イ 子実用とうもろこしは、農林事務所の設置している実証ほの成果を基に、省力的な大豆等畑作物の輪作体系の品目として位置づけ、大規模経営体を中心に推進する。

ウ 併せて耕畜連携の取組を推進し、土づくりや低コスト化を図る。

(6) 麦・大豆

ア 近年、県内の加工業者等の需要が拡大していることから、県とJ Aグループで策定した「福島県産麦の推進方針」や「福島県産大豆の推進方針」に基づき、関係者が一体となって地産地消の取組拡大を推進する。

イ 農林事務所が設置している「モデル地区」の成果を基に、既存団地の規模拡大のほか、他地域への波及を目指す。

ウ 低コスト栽培を推進し、「畑作物産地形成促進事業」の活用を促しながら、作付け拡大を図る。

エ 基盤整備事業の進捗や地域計画の策定状況に併せて、団地化や面的拡大の取組を推進する。

(7) 高収益作物

ア 地域農業再生協議会が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき、関係者が一体となった推進を図る。

イ 基盤整備事業の進捗や地域計画の策定状況に併せて、団地化や面的拡大の取組を推進する。

ウ 高収益化推進計画の推進品目は19品目あるが、令和7年度に終期となる12品目を位置付けている地域農業再生協議会については、当該品目の定着やさらなる産地づくりを推進する。

○水田農業高収益化推進計画における作付面積の目標

単位：ha

品目	用途	露地・施設の別	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
きゅうり	生食用	露地	241	208	205	183	220	256			
トマト	生食用	施設	140	170	172	152	152	152			
トマト	加工・業務用	露地	2	3	3	3	3	3			
アスパラガス	生食用	露地	101	106	93	83	100	116			
ブロッコリー	生食用 加工・業務用	露地	96	92	101	97	117	136			
さやいんげん	生食用 加工・業務用	露地	37	25	26	17	28	38			
たまねぎ	生食用 加工・業務用	露地	25	32	40	34	41	47			
ねぎ	生食用 加工・業務用	露地	61	55	57	66	68	70			
かんしょ	生食用 加工・業務用	露地	9	7	32	32	35	38			
りんどう	切り花用	露地	14	21	21	21	21	21			
トルコギキョウ	切り花用	施設	28	33	30	22	29	36			
宿根かすみそう	切り花用	施設	28	28	28	28	32	36			
ピーマン	生食用	露地		8	9	8	8	9	9		
いちご	生食用	施設		44	53	45	45	45	45		
ミニトマト	生食用	施設			23	27	27	27	27	27	
キク	切り花用	露地			16	23	23	23	23	23	
しいたけ	生食用	施設			6	4	5	6	6	7	
子実用 とうもろこし	飼料用	露地		5	15	15	15	15	20		
カキ	生食用	露地				29	29	29	30	30	30

注1：太枠は当該品目の水田農業高収益化推進計画の期間を示す。

注2：斜字は推進会議の試算値。

(8) 畑地化、田畑輪換・ブロックローテーション等の推進

ア 連作障害が少ない高収益作物や用水の確保が困難なほ場においては、畑地化を誘導する。

イ 飼料用米等を組み合わせた田畑輪換やブロックローテーションの構築を推進する。

○畑地化の状況 (R7/1/28現在)

単位:ha

年	高収益作物					その他作物							合計
	野菜	果樹	花き	その他	計	麦	大豆	飼料作物 (子実用とうもろこし以外)	飼料作物 (子実用とうもろこし)	そば	なたね	計	
R4	51.0	1.1	10.3	0.4	62.8	0.9	0	0.3	0	0	0	1.2	64.0
R5	92.2	2.6	31.5	1.4	127.7	0.9	1.4	52.8	0.5	272.2	0.1	327.9	455.6
R6	25.2	0.8	7.3	0	33.3	7.4	1.2	26.1	0	157.4	1.2	193.3	226.6
合計	168.4	4.5	49.1	1.8	223.8	9.2	2.6	79.2	0.5	429.6	1.3	522.4	746.2
割合 (%)	22.6	0.6	6.6	0.2	30.0	1.2	0.3	10.6	0.1	57.6	0.2	70.0	100.0

注1：畑地化促進事業の定着促進支援の面積を集計した。

注2：割合は、畑地化した水田全体の作物の割合を示す。

3 作物ごとの作付計画

(単位：ha)

作物等	R 6 (実績)		R 7 (計画)		R 8 (計画)	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	56,500	0	56,500	0	56,000	0
備蓄米	5,558	0	5,700	0	5,700	0
飼料用米	6,967	0	7,000	0	5,300	0
米粉用米	15	0	15	0	30	0
新市場開拓用米	178	0	250	0	800	0
WCS用稲	1,098	0	1,100	0	1,600	0
加工用米	429	0	600	0	1,500	0
麦	377	0	368	0	455	0
大豆	885	10	1,013	10	1,090	10
飼料作物	1,557	4	1,525	25	1,700	25
・子実用とうもろこし	12	0	20	0	25	0
そば	1,540	145	1,155	120	1,100	110
なたね	89	0	86	0	87	0
地力増進作物	1	0	5	0	5	0
高収益作物	730	0	826	0	892	0
・野菜	599	0	689	0	750	0
・花き・花木	74	0	80	0	85	0
・果樹	36	0	36	0	36	0
・その他の高収益作物	21	0	21	0	21	0
その他	35	0	35	0	35	0
・酒造好適用米	35	0	35	0	35	0
・雑穀	0	0	0	0	0	0
・青刈り稲	0	0	0	0	0	0
・その他	0	0	0	0	0	0
畑地化	228	0	200	0	200	0